

下商物語 (その54) 本校定時制のはなし

本校全日制教諭 林 俊行

終戦間もない昭和23年に我が国の学制改革とともに定時制及び通信教育制度が発足しました。しかし、当時は、施設・設備や教育予算等は多くの課題を抱える状態でしたから準備に手間取り、やっと本校では昭和27年4月に、勤労青少年に寄せる理解が人一倍強かった当時の福田泰三市長と第12代上田強校長の大変な尽力によって定時制課程が43名(男子41名・女子2名)でスタートしました。ちなみに募集定員は50名でしたが、志願者が123名にも達したようです。

参考までに、本校の夜学の歴史は明治時代の開校時までにはさかのぼります。明治17年10月に開校した2か月後には夜学の講座を設けて大変好評であったようです。定時制課程の先駆けを、既にその当時に取り組まれていました。

定時制課程の存在意義や特色は、①教育の機会均等の実現 ②地域社会の要求に適合した学校 ③全日制と同等の教育内容と資格 ④転校や転籍も自由にできる配慮 などでした。記録によると当時の生徒の間には、定時制という新しい課程を自分たちが築いていくのだという意欲に満ち溢れていたようです。当時の様子を下商定時制新聞(昭和34年7月18日号)の記録を見ると、創設時に上田校長が大変苦心されたことは、「全定一本(全日制も定時制も等しく下商である)」ということで、クラス名も全日制に倣って当時の先生方の英知で「浄」「明」「昭」の呼称とされました。

参考までに、同号の記事には「眠くて困る時に目を覚ます方法」といった特集記事があります。昼間にしっかり働いて夜に眠い目を擦りながら懸命に勉学に勤しむ様子が窺え、当時の学校行事では、体育大会やマラソン大会なども全定合同で行っていました。

授業は、当初は1時限が90分の2時限ないし45分を2時限ずつ連続する4時限授業が続きましたが、昭和32年度から45分間の授業へ、昭和53年度から40分授業となり現在に至ります。

なお、定時制特有の給食の時間(当初は、パン・牛乳の無人販売)が1時限終了後20分設定されていました。平成8年度から「三年修業制」が導入され、定時制課程と通信制課程を併修して3年間で修業して卒業した生徒が平成11年3月に3名(男子1名・女子2名)第1期生として卒業しました。

県立高校再編計画で平成31年度に誕生した「下関双葉高等学校」は、昼間部と夜間部がある定時制高校で、元の下関中央工業高校の校舎に新しく設置されました。同校の新設に伴って、下関西高校・下関工科高校・下関商業高校各校の定時制は募集が停止されました。第1期生として、昼間部に40名、夜間部に34名の新入生が入学されました。それに伴って、本校定時制課程は令和4年3月に最後の卒業生を送り出して、70年間の幕を閉じることになります。実に、1260余名(現時点で1267名の予定)にも及ぶ本校定時制の卒業生の方々も時代の流れを感じておられることだと思います。

令和2年7月7日付けの新聞各紙には、新山口駅前に、午前・午後・夜間の三部にわたる新しい定時制高校を令和4年春に開校するようです(山口松風館高等学校)。生徒の生活に合わせて柔軟に授業を行うことが特徴で、それに伴って現在の光・防府商工・山口・宇部工業・小野田・厚狭高校の6校が募集停止となります。今回の新型コロナウイルス感染対策での授業の在り方(リモートによる在宅での受講)が検討され、さらには(少子化などの)時代の流れと共に学校改編に伴って永い歴史を閉じる学校や新しい制度を備えた学校など教育の世界は目まぐるしいものを感じます。

※定時制生徒数一覧 資料提供 古田 潤 教諭(定時制)